

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

デオデオ第2本店

CASBEE-広島（2010年ver.1）

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内訳										
■1.「地球温暖化対策」の推進													
1.1 建物の熱負荷抑制													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ法の基準に沿った適正な断熱材で熱負荷を抑制する。	3.0	0.09	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能							
	3.0	0.91	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制									
小計	3.0	0.18											
1.2 自然エネルギーの利用													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用								
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用								
小計	3.0	0.11											
1.3 設備システムの高効率化													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 全熱交換器ユニットの利用による空調の高効率化、 高効率照明機器の利用。	5.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化									
小計	5.0	0.16											
1.4 設備システムの効率的運用													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 各種エネルギー消費量を年間に渡り把握。	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング								
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制								
小計	3.0	0.11											
1.5 資源・マテリアル対策													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型器具の採用、杭について高炉スラグを使用。	4.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水								
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無							
	3.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雜排水再利システム導入の有無							
	3.0	0.06	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減								
	3.0	0.20	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用								
	4.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用								
	1.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用								
	3.0	0.00	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材								
	4.0	0.20	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み								
小計	3.1	0.31											
1.6 ライフサイクルCO2排出率													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの高効率化によりCO2削減。	5.0	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮									
小計	5.0	0.13											
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.6	0.71											
■2.「ヒートアイランド対策」の推進													
2.1 溫熱環境の向上													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 外構・屋上に緑化を施し温熱環境の向上と地域アメニティへの配慮を行なう。	1.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出									
	3.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上								
小計	1.8	0.96											
2.2 交通負荷抑制													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場(隔地にて確保)、自転車(地下にて確保)とも附置義務台数を確保。	4.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制							
小計	4.0	0.04											
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価	1.9	0.18											
■3.「長寿命化対策」の推進													
3.1 耐用性の向上													
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 対応年数が長い材料を採用。	3.0	0.47	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性							
	3.0	0.12	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 免進・制振性能							
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 車体材料の耐用年数							
	2.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							
	3.0	0.03	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔							
	4.0	0.06	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔							
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔							
小計	3.0	0.70											
3.2 設備の更新性													
(コメント) ※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 主要機器を屋上や地下に配置し、将来更新時に容易に対応できるルートを確保。	2.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性							
	2.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性							
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性							
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性							
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性							
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース							
小計	2.7	0.30											
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)	2.9	0.10											
■重点項目の総平均(上記3項目)		3.2											